

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 05

2012年7月25日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄



地域と 共に生きる 教会の業として

教団が東日本大震災救援対策本部を組織するにあたって、10名の委員のうちの1名を日本キリスト教社会事業同盟（社事同）からという意向を受けて、私が昨年5月から救援対策本部の会議に加わることになりました。社事同は教団関係団体としての位置付けはあるものの、このようなかたちで教団の具体的な活動に参画することはこれまではなかったのではないかと思います。

■教団と社事同

社事同は、今年度の総会・研修会を6月7日～8日に被災地である仙台で開催しました。その前日6日～7日にはオプションプログラムとして、石巻・南三陸などの津波被害の大きな爪痕の残る現地を訪問するツアーも実施されました。総会・研修会のテーマを「災害とキリスト教社会事業」とし、横須賀基督教社会館の阿部志郎先生のご講演、韓国から出席された大韓イエス教長老会より社会奉仕部の取り組みについてご報告をお聞きし、これからの教会と社事同とが地域にいかに関わっていくのかというシンポジウムをしました。今年度は教団でもこれまでとは違った思いがあったのでしょうか、ご挨拶のためにご出席くださった石橋秀雄教団議長に加えて、社会委員会からも宣教委員会からもメッセージを立ててご参加くださいました。

教団が東日本大震災の救援・復興に関して地域社会に対して直接行なっている支援として、①東北教区と連携し仙台と石巻の2か所に拠点をおく被災者支援センター「エマオ」での取り組み、②岩手県遠野市に拠点をおいて展開してきた三陸海岸の市町での支援、③放射能災害にさらされている福島の子どもの心の支援を目的にした「こひつじキャンプ」などがあげられます。

社事同では専門職員の派遣を考え、事務局が中心になって現地の福祉関係者から情報を集め、昨年から続けて介護職員等の派遣を継続してきています。

■今こそ共に仕えるとき

神さまを愛することと隣人を愛することをキリストの教えの柱として、教会が時代を越えて信仰を継承してきたとすれば、教会で礼拝を捧げることとともに、社会の中で人々に仕えることは、キリスト者として生きるうえで大切なことだと思います。そしてそれは、医療や教育や福祉など、実際に人を支援する職業領域だけでなく、日常生活の中で出会うあらゆる人たちとの関係の中に求められることなのだと思います。

大きな災害を目の当たりにし、みんなが自分に何ができるだろうかと自問自答し、災害の起こるまで社会の実情にいかに関心であったかに気づかされました。日常的に地域のニーズに向き合い支援してきた私たちもまた、既成の制度の枠組みの中の仕事に甘んじ、緊急の事態に即応するための準備ができていなかったと反省させられました。私たちの働きの出発点は、困難な状況に生きる地域の人たちの命に寄り添うということで、それは聖書に示されたキリスト者としての生き方に重なります。キリスト教社会福祉施設といえども職員の多くがキリスト者ではないというのが現状ですが、社会の中で隣人のためにともに仕えようとするとき、教団と社事同の思いは一つになると思っています。

日本基督教団

救援対策本部委員

稲松義人

（日本キリスト教社会事業同盟理事長）

教団の被災地支援

東日本大震災を覚えて海外から多くの献金をいただいています。この献金は主に、被災地の皆さんのため（人道的支援）に用いています。ここに救援対策本部の被災地支援活動を報告します。

★ハートフル遠野 UCCJ★

「ハートフル遠野 UCCJ」訪問記

教団は昨年 8 月に岩手県遠野市に被災者支援のためのセンターを設けました。そこに当初は NPO 法人「自殺防止センター」のメンバーが常駐し、被災者のグリーフケアを行ってきましたが、昨年 12 月に同センターは撤収し、その後は常駐者のないまま、現地スタッフの佐々木ムツ子さん（臨時雇用）と、教団から頻繁に通う前北未央主事や加藤誠幹事らによって運営されています。「ハートフル遠野 UCCJ」と命名し、そこに各地からボランティアが応援に来ています。

毎朝 7 時 50 分に遠野のセンターに集まり、ミーティングをしたあと、車で約 50 キロ離れた釜石に向かいます。マイナス 18 度にもなる冬の遠野は、佐々木さんのような地元の方でないと運転は困難だそうです。

私が 6 月 19 日（火）にお訪ねした釜石市野田町第 2 仮設住宅は、公園だった所に 49 戸が建てられています。仮設に到着すると、まず荷物おろしです。お茶の道具や、テーブルクロスもメニュー表も、BGM のための CD ラジカセや、外に建てる案内看板も、みんな持ち込んでセットします。

それから呼び込みです。私は前北さんの後に付いて、「10 時からお茶っこしまーす、どうぞ来てくださーい」と言って仮設住宅を巡り歩きました。その日は 10 名ほどの女性たちが集まってきました。スタッフのサービスする抹茶やコーヒーなどをすすりながら楽しくおしゃべりをした後、一旦



外に出て広場でラジオ体操をしました。その後再び集会室で、スタッフの用意した手芸を楽しみました。「今日は何を作るの?」と、これを楽しみにいらした方もあるようです。そんな風にゆったりとした時間を、ここで過ごしていられるのです。

この「お茶っこサロン」の開催は、釜石市社会福祉協議会の要請によるものです。教団だけでなく、聖公会やカトリック、食品や事務機などの企業、その他 NPO 法人なども参加しています。これを被災者の皆さんの癒しの時としていただくと共に、仮設住宅でのコミュニティ作りに役立ててほしいと考えています。

釜石市は 3.11 の津波被害により、人口約 37,000 人の内、約 1,100 名の死者・行方不明者を出しました。住宅建物の被害は 3,600 戸に及び、市は約 3,100 戸の仮設住宅を建設しました。それらは沿岸部から少し離れたところに点在しており、「ハートフル遠野 UCCJ」は火曜から金曜の 4 日間、4 箇所の仮設を訪ねて「お茶っこサロン」を開催しています。多いときは 20 名を超える利用者がいます。

教団はこのような「人道的支援」を、「教会復興」と共に行っていきたいと思います。そのための資金は主に、海外諸教会から送っていただいた募金を用います。しかし資金以上に必要なのは「人材」です。教団から主事が通い続けることは無理です。ここに常駐して、教団らしい活動を管理、運営して下さる方が与えられますよう祈っています。

大村 栄
(救援対策本部委員／阿佐ヶ谷教会牧師)

❄️ 東北教区被災者支援センター・エマオ ❄️

東北教区被災者支援センター・エマオには2つの活動拠点があります。一つは仙台、もう一つは石巻です。車で一時間半の距離ですが、「1つのチーム」として、両方のスタッフがお互いを支え合いながら歩んでいます。

私たちエマオが仙台で関わっている津波被災地（主に七郷笹屋敷・石場）では、少しずつフェーズ1（緊急支援）が、徐々にフェーズ2（中長期的な継続的復旧支援）に移ってきています。それに伴い、エマオのワーク内容も変化して来ました。

泥かき作業はほぼなくなり、津波を被った農地をきれいにし、農業のお手伝いをするというワークが多くなって来ました。畑の上に流れされてきた大量の泥や「瓦礫」の大きいものは少しずつ片付き、ひと目では津波が来たことが分からない状況です。それ自体はいいことですが、かと言って元通り農業が再開出来るわけではありません。今



度は畑の土に混入してしまった石や細かい「瓦礫」を取り除く必要があります。農家は高齢化が進み、おじいさん・おばあさんだけで、広大な畑を掘り返し、石などを取り除くことは不可能です。

2枚の写真を御覧ください。菅野さんという方の畑の5月と10月の風景です。津波被災当初は、この畑の姿を見て農業を諦めたそうです。しかし、「エマオが自転車で通って来てきれいにしてくれたこの畑を見て、農業を再開する勇気が与えられた」と言って下さいました。いまここで野菜の種が時かれ、新しい命が育まれています。そのような小さな奇跡が起こるために働いていくことが、エマオのなすべき業であり、私たちキリスト者の祈りだと信じつつ、腰を据えて歩んでいきたいと思えます。

佐藤 真史

（東北教区被災者支援センター幹事補佐）



❄️ 東北教区被災者支援センター・エマオ石巻 ❄️

『東北教区 被災者支援センターエマオ』（仙台＆石巻）。ここで何より大切にしているのは、この被災者支援の営みが「教会の営み」であるという本質です。それは、祈りや御言葉や礼拝などを活動の指針にし、関わる者全員がそれに強められ導かれて被災の地に仕える業を成してゆくということです。

エマオの活動を支えているワーカーの多くが、教会を知らないノンクリスチャンであり、支援で関わりを持たせて頂いている方々も、ほとんどがノンクリスチャンです。しかし、ワーカーの一人一人はそのエマオの指針と姿勢に共感を覚え、何度も訪れる者もいます。また、エマオを通してこ

の震災支援の業に出会い、より長期に渡る関わりを望み、エマオのスタッフになる者もいます。昨年の初期の段階より関わりスタッフとなり、石巻拠点である「エマオ石巻」に長く関わる高橋正太氏より、その現状をお聞きすることができました。

- ・継続されている「微力であっても穏やかに仕える姿勢」が浸透し、地域の方々と豊かな心の交わりが許されている。
- ・一年を過ぎ、撤退してゆく団体もある。
- ・ワーク内容は農業・給食・傾聴など肉体的には軽くなり、中高年など幅広い方々の参加が可能であり、むしろそのような方々から与えられ、得るものも多い。

「エマオ石巻」での派遣の祈り。教会を知らない者も、ここで祈りの豊かさに触れる。



撤退してゆく団体もある中で、やはり教会の営みとしての姿勢、全国・世界の教会の献金、多くの教会からの幅広い年代のボランティアに支えられて今があることに心から感謝をいたします。

しかしもう一点、活動の根幹に関わるとも気になる報告がありました。それは、6月初旬より石巻拠点には「専従者がいない」ということ。専従者とは教団などから派遣された責任者であり、様々な業務を兼ねますが、その中で最も大切なことは「祈ること・送り出すこと・迎えること・聖書的判断をすること」であると言えます。今、石巻ではそれが困難になっているのです。

エマオの姿勢を大切にするスタッフたちは、朝は「主の祈り」を祈り、夕刻は地域の教会に出向いて祈ってもらっていますが、ノンクリスチャンだけで「主の祈り」を祈ることに戸惑いをもっています。また訪れるボランティアに対しても、エマオの活動の指針を伝えることが適わないもどかしさも感じています。そして何より、支援先で出会う被災者の方々からの、「エマオとはどんな団体



なのか?」「なぜ無償でやってくれるのか?」「そんな想いはどこからくるのか?」……その問いに、十分に答えることができない悲しみも覚えているそうです。

エマオの中心は「祈り」です。全国・世界の教会の献金と祈りに支えられ、祈りで派遣され祈りで迎えられ、祈りで食し、聖書を指針に決断を成してゆくののです。この震災の出来事を決して「伝道の手助け」にすることはなくとも、率直なその問いには配慮とともに堂々と答えたい。全国から集うボランティアの方々にはしっかりとその精神を伝え、彼らの後の人生に活かしてもらいたい。何よりも、仕える業に従事するワーカーの一人ひとりが、祈りに守られ一日を過ごすその豊かさを保ちたいと願うのです。

現在のエマオ石巻が、穏やかに地域に仕え豊かに受け入れられつつも、大きな課題に向き合っていることを覚え、専従者が与えられるようどうぞお祈りください。

野田 沢

(SCF 主事)

◆はじめまして

ラオ紀子さん



はじめまして。20年近く合同メソジスト教会人道支援部（UMCOR – United Methodist Committee On Relief）及び赤十字のボランティアとしての災害支援経験を活かして、私も何か東日本大震災に関する手伝いをしたいと思いました。

UMCOR 派遣コンサルタントとしてのボランティア活動を始めたのは昨年5月。ワシントン・アイダホ州教区婦人会の会計と赤十字支部の災害支援ボランティア総括責任者として多忙を極める中、長期日本滞在は不可能な私に出来る事は何かを、電話とEメールで東北教区被災者支援センターと相談した上、6月に仙台エマオ被災者支援センターで、9月設立予定のエマオ石巻の設備費とスタッフの給与の為の資金申請を UMCOR に出す手伝いをしました。

昨年9月からはNCC-JEDRO（日本エキュメニカル震災対策室）に。その主な仕事は、JEDROに提出された被災者支援事業計画と予算書をチェックし、少しでも多くの海外支援団体の理解を得て、資金の集めるため、改訂点を事業担当者に提案します。改訂に改訂を重ねる時間のかかる仕事。帰米後もEメールで交信を続ける事もあります。

UMCOR 幹部やジュネーヴからこられた ACT Alliance 総幹事のお供で、アジア学院、仙台、石巻、南相馬、南三陸などの被災地訪問の機会も与えられました。6月には、ガイガーカウンターがビービー鳴り叫ぶ南相馬の小高地区も訪れました。震災に関する来日はこれで9回を重ねました。今後もよろしくお願い致します。

こひつじキャンプ

「こひつじキャンプ」とは、福島の子どもの「命」を守るプロジェクトとして岡本知之教団副議長（救済対策本部副本部長）が発案し、始動したプロジェクトです。キリスト教精神に基づいた東京 YMCA のキャンププログラムを通じ、福島県から遠隔地へ2泊3日～1週間程度、福島県内の親子又は子どもたちを対象として一時的に保養に出る事により、転地療養、リフレッシュしていただくことを目的としています。



現在3回のキャンプが山中湖、妙高高原で行われており、7月後半に行われる第4回目は子どもたちを対象として、徳島県にある大阪 YMCA 阿南国際海洋センターで一週間にわたる本格的なキャンプです。今回はさらに内容も濃くカヌーやカヤック、キャンプファイヤーや無人島でのテント泊などキャンプの醍醐味をぎゅっと凝縮したような充実した内容になっています。台風のシーズンと重なる為、お天気が心配ですが、子どもたちの夏の思い出になれるよう、どうぞお祈りに覚えてくださいますと幸いです。

こひつじキャンプは子どもの「命」を守るプロジェクトですが、同時にご家族も元気になって頂



く工夫も練られています。夜は保護者の親交を深めてもらおうと歓談の席を設け、リラックスタイムとして盛り上がり、第2回目では第1回目に参加されたお母さん達からのリクエストに応え、アロマに詳しい臨床心理士の先生に同行し

てもらい保護者を対象とした「アロママッサージ」「アートセラピー」なども行われました。第3回のキャンプに参加した保護者の一人は「子ども達が元気に外で遊ぶ姿をとてうれしく思いました。それによって親も癒されていると感じます。」と感想を述べ、ご家族にとっても子どもたちが元気に遊び回る環境での保養は効果的なリフレッシュの機会になっている模様。参加された皆さんは今後もこのような機会があったら是非参加したいという声が多く、福島に住むご家族と共に痛みや悩みを一時でも分かち合わせて頂くことのできる短期保養プログラムの営みは、今後も継続的な実施が強く求められています。

前北 未央

(元救済対策本部主事)

会堂・牧師館再建支援開始！

震災対応も初動救援活動から、放射能対策を含めた中長期の支援へと態勢が移行しつつあり、特に会堂・牧師館の再建支援が本格化してきました。5月31日の第12回救済対策本部会議で、桐生東部教会（支援希望額15,175,100円）、益子教会（同1,820,000円）、水戸自由ヶ丘教会（同1,875,500円）の3教会からの支援申請（関東教区常置委員会で承認済み）について、それぞれ支援希望額の50%を支援することを決定しました。また、6月29日の第13回救済対策本部会議では、被災教区の教区議長からの報告により、支援希望額の大枠がおよそ6億1千万円（奥羽教区1億8千万円、東北教区1億7千万円、関東教区2億6千万円）であることが確認され、今後、それぞれの申請に基づいて支援が決定されることになります。

7月9日～10日開催の第6回常議員会では、貸出資金の原資のため、日本基督教団会堂共済組合から2億円を限度とする借入れも承認されました。この再建支援遂行のため、とくに国内募金の目標達成のためお祈りください。(藤盛勇紀)



東日本大震災救援募金会計

総額 598,088,822 円

国内 385,895,137 円

海外 212,193,685 円

2012 年 6 月 30 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表

(単位：円)

東日本大震災救援対策委員会会計、東日本大震災救援対策本部会計
中間収支計算書 (単位：円)

教区	件数合計	金額合計		10 ～ 11 年度	12 年度	総合計
北海	62	2,746,014		2011 年 3 月 12 日～ 3 月 31 日	2012 年 4 ～ 6 月	2011 年 3 月 12 日～ 6 月 30 日
奥羽	61	2,112,939	【収入の部】			
東北	35	1,737,150	繰 入 金	50,000,000	0	50,000,000
関東	372	24,265,742	海外募金収入	210,440,705	1,752,980	212,193,685
東京	757	106,881,746	国内募金収入	336,817,359	49,077,778	385,895,137
教区	8	274,256	当年度収入合計 (A)	597,258,064	50,830,758	648,088,822
東京・東	128	14,825,174	前期繰 越 収支差額		380,866,480	
東京・西南	210	49,654,004	収 入 合 計 (B)		431,697,238	
東京・南	78	13,011,031	【支出の部】			
東京・北	138	14,743,582	救 援 金 *1	103,607,240	6,112,828	109,720,068
東京・千葉	195	14,373,699	会堂牧師館再建補助金 *2	0	7,587,550	7,587,550
西東京	332	35,177,753	見 舞 金	1,940,000	0	1,940,000
神奈川	293	30,660,313	委 員 会 費	3,093,199	347,049	3,440,248
東海	230	20,226,344	渉 外 費	917,653	94,710	1,012,363
中部	309	43,493,040	人 件 費	16,120,193	5,328,026	21,448,219
京都	56	6,885,129	事 務 費	20,387,645	4,891,873	25,279,518
大阪	260	21,397,926	活 動 費	3,123,444	1,092,513	4,215,957
兵庫	66	8,442,852	車 両 費	3,960,228	819,009	4,779,237
東中国	56	3,153,225	建 物 費	13,241,982	0	13,241,982
西中国	110	5,683,583	救援対策本部繰出金	0	0	0
四国	207	12,174,821	救援対策基金戻入金	50,000,000	0	50,000,000
九州	204	13,264,109	当年度支出合計 (C)	216,391,584	26,273,558	242,665,142
沖縄	55	1,886,643	当年度収支差額 (A)-(C)	380,866,480	24,557,200	405,423,680
個人・他	570	45,705,808	次期繰越収支差額 (B)-(C)		405,423,680	
総計	4,035	385,895,137				

* 2011 年 3 月 15 日～ 2012 年 6 月 30 日

* 1 救援金 (4 月～ 6 月支払い内訳)

2012.4.9	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 7 件	467,200
2012.4.13	東北教区教会関係諸施設職員車両購入・修理費補助 (西南ドイツ宣教師会 EMS よりの指定献金) 栄光幼稚園 (石巻栄光教会) 3 名 1395100 円、白水のぞみ保育園 (常磐教会) 2 名 920000 円	2,315,100
2012.4.18	東北教区教会関係諸施設職員車両購入・修理費補助 (西南ドイツ宣教師会 EMS よりの指定献金) 栄光幼稚園 (石巻栄光教会) 3 名 1395100 円、白水のぞみ保育園 (常磐教会) 2 名 920,000 円 振込先: 東北教区	222,200
2012.4.20	第 2 回こひつじキャンプ費用 (2012 年 3/9 ～ 11 妙高高原ロッジ) メンバー 20 名 リーダー・スタッフ 4 名 食事代、宿泊費、謝礼、雑費、保険、他 支払先: 公益財団法人 東京 YMCA	1,071,406
2012.4.23	ハートフル遠野 UCCJ 釜石市各自治体主催お花見の企画 協賛金 (野田西・大松・松倉 C・D 各仮設 @50000 × 3)	150,000
2012.4.26	東日本・健康診断 (人間ドック) 受診費補助 1 名分一部返金	-5,000
2012.5.2	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 5 名分	289,900
2012.5.14	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 6 名分	299,900
2012.5.23	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 1 名分一部返金	-9,100
2012.5.25	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 返金 2 名分	-11,400
2012.6.15	第 3 回こひつじキャンプ (2012 年 4 月 28 日～ 30 日) 山中湖 メンバー 31 名、リーダースタッフ 6 名、バス運転手 1 名 / キャンプ実施費用 振込先: (財) 東京 YMCA 南コミュニティセンター	1,288,869
2012.6.20	3 教区保養プログラム (2012 年 3/27 ～ 4/2) 残金戻し 北海教区東日本大震災支援委員会より	-418,947
2012/6/5 ～ 26	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 8 件 8 名分	452,700
合計		6,112,828

* 2 会堂牧師館再建資金

6 月 27 日 教会堂・牧師館再建復興工事支援金 桐生東部教会 7,587,550

【募金振込先】

振替番号 00110-6-639331 加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金